



所属部署：中央棟4階東病棟
アドバンス助産師

Q1 スペシャリストとして主な業務内容を教えてください。

私は、国際認定ラクテーション・コンサルタント（IBCLC）、アドバンス助産師、思春期保健相談士、産後ケア実務助産師として産婦人科病棟で勤務しています。IBCLCは全世界共通の認定試験に合格して認定された母乳育児がうまくいくための支援に必要な一定水準以上の技術、知識、心構えをもつヘルスケア提供者です。妊娠、分娩、産褥期の母児に寄り添い、妊娠期からの母乳育児支援の見直しと産後入院中のケアの底上げ、退院後の継続フォローに繋げることなどを意識しています。ケアの質の向上を目指して年3～4回産婦人科・小児科病棟のスタッフを対象とした勉強会を開催しています。また、アドバンス助産師として自己の助産実践能力を客観的に評価する指標があるため、知識の更新と技術の向上のために学びを深め妊産褥婦に対応できるように努めています。

Q2 仕事をする中で難しさを感じることも、またやりがいを感じることもなどを教えてください。

混合病棟のため妊産褥婦への関わりだけではなく、担当している患者さんのケアの優先度を考えながら働いています。妊娠中から担当していた方に産後まで関わらせていただき、女性が母親になっていく姿をみたり、母児の経過と成長を見守れることにやりがいや楽しさを感じています。IBCLCとして、直接授乳がうまくいかずに悩んでいる母児に寄り添い、それぞれが思い描いている母乳育児ができるまで継続して関わり、母児を労い、喜びを共有できることにやりがいを感じます。

Q3 横浜南共済病院の〈ここが好き〉〈魅力〉〈PRポイント〉を教えてください。

母児にとってよりよいケアを提供し「今よりよくなる」ためにチャレンジしたり、改善策を考えていくことができます。今できること、やるべきことに継続して取り組み、患者さんのメリットにつながるよう自己研鑽していますが、当院は努力していれば報われると感じています。

また自分のライフワークとして、思春期保健相談士として命の授業や性教育に携わり、日々感じている命に対する想いを伝えていきます。若年の妊婦さんや望まない妊娠、出産を迎えた方への関わりにも生かしています。

また、当院はPNS®で看護をしているため、自分が後輩に伝えられることを伝え、ケアの方向性を共に考えながら私自身が後輩から刺激を受けることもあり、先輩としてもモチベーションが上がるメリットを感じています。

Q4 今後の目標や目指していることを教えてください。

妊娠中から産後、育児をしている母児に必要なケアを提供して「ここで出産してよかった」と思われる産科を目指しています。今後は、必要といわれている産後ケア事業を当院でも実現し、産後ケア実務助産師として産後ケアがさらに充実するよう病棟全体で取り組んでいくことを目標としています。